

はれやか

第20号

令和2年5月発行

岩藤クリニック 南側花壇

岩藤医療保健福祉グループ

岩藤医療保険福祉グループ
医療法人 知誠会
社会福祉法人 赤磐中央福祉会

理事長 岩藤 知義



今年春になっても冷え冷えした日が続き、桜の開花と雪景色が重なる珍奇な光景を目にしました。当院の花壇の葉々は、虫も寄り付かず青々としています。新型コロナウイルスで人々の活動が止まり地球温暖化に歯止めが掛かったことが一因でしょうか。

旧正月の武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症が、春節の中国人の大移動と重なり、瞬く間に全世界にパンデミックを招きました。感染者、死者ともに絶大な数を更新中です。目に見えないウイルスとの戦争は、オリンピックを延期に陥らせ、経済活動を停止させました。第二波の恐れもあり、今後も油断することはできません。

我が国では感染症の脅威を予見しつつも、サーズ、マーズの経験がないために、水際作戦で初期対応に遅れをとったようです。島国の有利さも生かせませんでした。やがて指定感染症となり、医療機関に直接受診出来ず、まずは帰国者接触者相談センターへの連絡が求められたので受診抑制となりました。

PCR検査も保健所が実施するため処理能力に限界があり、診断が遅れていました。最近になってやっと医師会主導のPCRセンターが稼働となりましたが処理件数はまだ少ないようです。治療薬がないため原始的な接触防止が対策の中心ですが、基本は隔離であり3密を避ける事を重点としています。しかし、国民への自粛・個人の行動変容に任せた施策だけでは限界があるように思われます。

国家の存亡にかかわる緊急事態下では、人命優先を考え、米国疾病対策センター(CDC)のような緊急即応できる体制が必要ではないかと私は考えます。

今、医療現場もコロナのために一般の手術や検査が停滞しています。院内感染防止に気を使い、受入に先駆けてコロナではない事を確認する必要があります。更にマスク、フェイスガード、ゴーグル、ガウン等必要物資が不足しています。医療側が濃厚接触者にならないようにと、最前線で頑張っています。国は今まで地域のベッドを削減して医療費を抑えようとしてきましたが、今回の危機で地域医療の重要性が理解されたと思います。現在は学会活動や講演会も中止が相次ぎ、情報はメディアに頼っています。現場で直接活躍する方々のタイムリーな情報とノーベル賞受賞者の貴重なコメントが大変参考になりました。感染拡大防止として実効再生産数を0.5にするためには、8割の自粛が必要なのが実践によって証明できました。今後も医療側と政治側のコミュニケーションが、ますます重要になってくるでしょう。この危機を乗り越えるために医師会がもつとリーダーシップを発揮して欲しいと思います。危機に学び備える事が大切です。

当院は今後とも感染予防に努めながら必要な検査、医療を提供致します。そのために換気、清掃を十分に行った上で、一般外来と発熱外来の入口、診察室を別にして動線が重ならないよう配慮しています。更にオンライン診療も開始していますので電話や窓口にてお問合せください。

この騒動が収束した後の世界にも思いを馳せています。治療薬とワクチンが早く完成して来年のオリンピック開催を願っています。今後は、第4次産業革命が起こりテレワークが普及しAIやロボットが普及するでしょう。人々の移動が減少しフレイルに拍車がかかるのではと危惧する思いもあります。一方で、ゴルフ界のヒロインの座が定着してきた地元平島出身の渋野日向子プロの活躍を一日も早く見たいと希望するばかりです。